



日向屋 (株)日向屋 代表取締役 岡本和宜

自己紹介

- ①岡本和宜 44歳
- ②高校卒業後 サービス業8年
- ③農業従事歴 17年
- 役職
- ①(株)日向屋 代表取締役
- ②田辺市観光協会 常任理事



事業内容

- ・ ①農産物の生産、加工・販売事業。
- ・ ②農作業受託事業。
- ・ ③グリーンツーリズム体験事業。
- ・ ④ジビエ販売事業。

和歌山県田辺市上芳養とは

①人口は2021年度 約1542人。

2040年には約1129人まで減少予測。高齢化率約40%

②基幹産業は、梅・蜜柑を中心とした農業。次いで製造業。

③小学校の児童数の推移。

私が小学校6年（今から31年前）全校生徒数156人。

現在75名。 少子高齢地域。

④観光資源

田辺梅林（観梅）2月のみ。

地域の課題

- ・ ①高齢化により作付面積が大きく減少。空き園地の増加。
- ・ ②担い手不足による耕作放棄地の増加。
- ・ ③深刻化する鳥獣害被害。
- ・ ④農産物の価格不安定。
- ・ ⑤人口減少による雇用確保。
- ・ 将来の農業従事者がこの地域にはいなくなる可能性。
- ・ 子供達が農業をしたいと思う環境になっていない。
- ・ 家業が農業だから将来農業を継ぐという時代ではない。
- ・ 既存の農業スタイルを変えないと子供達が憧れる職業にはならない。

被害が増えた原因と対策

- ・ 被害が増えた原因
 - ・ ①農業従事者の減少
 - ・ ②耕作放棄地の増加
 - ・ ③ハンターの減少
 - ・ 15年前は週末になると巻き狩りに毎週5人から10人位が山に来ていたのが、5年前にはゼロに。
- ・ 対策
 - ・ ①防護ではなく捕獲。
 - ・ 根本的な解決を目指す。
 - ・ ②狩猟チームの結成。
 - ・ ③山や狩猟について学び。
 - ・ ④捕獲計画を策定。
 - ・ 共存共栄を目指す。

狩猟チーム・TEAM・HINATAの結成

- ・鳥獣害の根本的な解決を目指す為、5名で狩猟免許を取得。
- ・設置ワナ数(100基・くくり罠)
- ・活動1年目で約120頭(鹿・猪・猿)の捕獲に成功する。
- ・地域の方々からの沢山の感謝の声を頂く。

その一方で葛藤と疲弊していく自分。

自分達の生活を守る為の狩猟が精神的に重くなっている。

動物を殺す行為が…。自分達の為なのか？

自分のやりたい農業は有害・獣害の名のもと動物を殺して、梅・蜜柑を栽培をしていく農業か？

この形の農業は子供達がしたいと思うのか。

自分のやりたい農業は、人と人が関わり合い、畑に来たいと思ってもらえる農業だったはず。

人と人が繋がり、地域に人を呼ぶ仕組みを作る農業がしたかったはず。

- ・農業と鳥獣害でイノベーションを創出したい。ジビエと農業で地域に人を呼ぶコンテンツを創るしかない。

ひなたの杜（ジビエ加工処理施設）



ひなたの杜の誘致について

- ジビエと活用するには、処理施設が必要です。
- 地域住民の声 反対する声。ほぼゼロ。
- 若い世代が地域の為にそこまでするなら、地域としては反対できない。(区長のこれからは必要やの一言)
- 一方で、行政から言われた現実の一言。

岡本さん全国にはジビエ施設は約500あります。そのほとんどが赤字ですよ。民設・民営でやっていけますか？

施設建設前に湯川とは腹を割って随分、話した記憶があります。

ジビエ施設の運営について

- ・ 施設運営の課題(従来)

- ・ ①捕獲数量の確保

- ・ 施設運営と安定供給

- ・ ②販路開拓

- ・ 販売方法手段(ノウハウ)

- ・ ③廃棄処分費

- ・ 産業廃棄物

- ・ ④ストックスペース不足

- ・ 需要と供給のバランス

- ・ (株)日向屋×ひなたの杜

- ・ ①捕獲数量の確保について

- ・ 田辺市内(市外)約8ヶ所で説明会を実施。現在では約80人が施設の運営に協力してくれています。

- ・ ②販路開拓

- ・ 積極的に営業活動を実施し当初は取引先が8ヶ所だったのが現在では県内外を含め60ヶ所を超えました。

- ・ ③廃棄処分費

- ・ この問題は現在も未解決...

- ・ ④ストックスペースの不足

- ・ スtockスペースが不要